

タイトル	病気を世界の終わりとしてはいけません
ポーランド語のタイトル	Choroba to nie koniec świata
テーマ *	c
名前	ベアタ・ビデルスカ
ポーランド語の名前	Beata Bydelska
学校名 * 2	ニコラウス・コペルニクス大学
学年	2 年生
日本滞在歴	なし

「世界から猫が消えたならこの世界はどう変わるのだろうか？世界から僕が消えたならいったい誰が悲しんでくれるのだろうか」私の好きな日本の映画の言葉です。この映画で、脳腫瘍にかかっている主人公は何か大切な物を世界から消す代わりに、一日長く生きることが出来ます。皆さんはもし自分に不幸が起きたらどうしますか？

昔、私のある友達は白血病でなくなってしまいました。その時は、確かに悲しかったですが、心のどこかで私には関係ない、と思っていました。しかし、今は私の大好きな父が白血病になってしまいました。

父の病気が分かったころの私は「どうして私のお父さんなの？」と思いました。「お父さんは苦しんでいるのに、私は友達と遊んだりしててもいいのかな？私は笑顔でいても大丈夫かな？」と悩んでいました。今でも時々辛くて、心が痛くなることがあります。父の苦しみを全部受け止めたい。誰かに私の恐怖を全部受け止めてもらいたい。そう思う時もあります。父はどんなに苦しくてもいつも笑顔でいようと頑張っています。ですが、冗談を言ったりふざけたりしていても、本当は怖がっているはずです。だって、死ぬことが怖くない人なんていないはずですから。

ガンは確かに恐ろしいものですが、私が皆さんに一番伝えたいのは病気の怖さではなく、病気から何かを学ぶことができるということです。以前の私は、何かしたいことがあっても「今じゃなくて、いつかすればいい」と先延ばしにしていました。しかし、父の病気をきっかけに、今することが大切だと気がつきました。なぜなら、「またいつか」は一生来ないかもしれないからです。それで、私は前から入りたかった日本学科に入りました。

父が病気になってから変わったのは私だけではありません。以前より家族みんながお互いを支え合うようになりました。それから、最近になって初めて父は家族みんなの前で母に「愛している」と言いました。なぜこの言葉は普段はこんなに言いづらいのでしょうか。たった一言なのに。

皆さんはこの世界から大切な人が消えたら「どうなるのか」考えたことがありますか？世界から自分が消えたら、だれが悲しむのか考えたことがありますか？明日がどうなるかは誰にも分かりません。だから、何も後悔しないように大切な人との時間を思い切り楽しみましょう。悩むことで人生をむだにしてはいけません。どんなに辛いことがあっても、その中から幸せを見つけられるはずです。

Podsumowanie(60-70 słów)

W obliczu ciężkiej choroby ludzie często uważają, że już nic nie da się zrobić, tracą nadzieję i myślą negatywnie. Białaczka, na którą choruje mój tata, zmieniła nie tylko jego, ale również mnie i całą moją rodzinę. Obserwując postawę mojego taty nauczyłam się, że szczęście można odnaleźć nawet w najcięższych chwilach. Uważam, że należy doceniać to, co zostało nam dane i szczerze cieszyć się życiem.